

悠々オーストラリア

メルボルン子育て日記

3

出産予定日が近づき、今か今かと待っていると、いよいよ陣痛が始まりました。すぐに病院に電話すると、「陣痛の間隔が短くなるまで家にいなさい」と言われ、なかなか入れてもらえませんでした。夜中になってやっと病院へ。早速、個室に通され、そこが分娩室になりました。

翌日の午後、やっと赤ちゃん誕生。元気な女の子でした。夫にとっては出産への立ち会い、へその緒の力

ットと、初めての体験で、そり疲れたようです。その夫は、次の日から2週間育児休暇をとりました。

さて、出産後1時間ぐらいでシャワーを浴び、病棟に移動。赤ちゃんはすぐ横のベビーベッドに寝かされました。新生児室はなく、自分の赤ちゃんは自分で世話をしなさいという感じで、看護師さんは特別な時以外なかなか来てくれません。初産の場合、入院で居るのはわずか2日！2人

赤ちゃん誕生



子どもと一緒にアフタヌーンティーを楽しむマザーズグループのメンバー

目になると、翌日には病院を出されてしまいます。出産は病気ではないという意識が強いのでしょうか。

赤ちゃんの検診は、自宅近くの乳幼児ヘルスセンタ

ーで。検診は1人1時間くらいで、赤ちゃんの様子を観察したりお母さんの相談のつてくれます。また、初めての子供のために育児学級を開いてくれます。上

手な寝かせ付け方、赤ちゃんマッサージの仕方、事故の防止、お母さんのリフレッシュ法など。お母さんたちは育児学級終了後も、マザーズグループとして定期的に会うことが多いです。

私たちも、7人のメンバーでマザーズグループを始めました。週1回、メンバーの家に赤ちゃんを連れて集まり、お茶を飲みながらおしゃべりします。集まる家は持ち回り。日本の感覚だと、家に呼ぶのは片付けやお茶菓子の用意など気を遣うことが多いですが、こちらではあまり気にしませんが、特別なおもてなしよりも、会話を楽しむことが大切なのです。文化の違いを感じますね。

日本では、公園デビューがお母さんたちの関心事のようですが、こちらではそれにあたるものはありません。広い公園がいくつもあり、特定の人と必ず会うということもなく、誰もいないこともあります。それはそれでちょっと寂しいですね。

(新山直子、メルボルン在住)

(日曜日に掲載)

初産は2日で退院